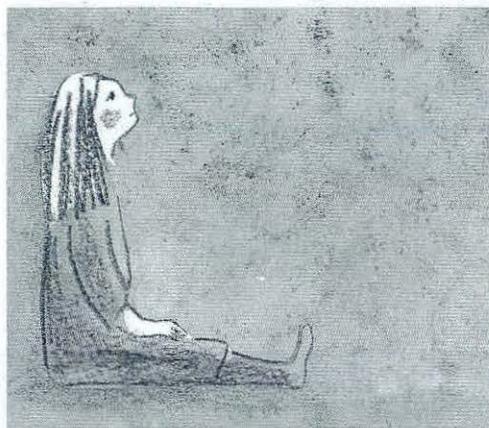


# 魔女先生の玉手箱

70

## 20歳のあの子がデモに



絵 うめだゆみ

20歳の奈々さんからお便りが届きました。

—先生、ご無沙汰しています。心配をかけてごめんなさい。相変わらず無職ですが、外にちょっと出られるようになりました。それで実は、デモに少し参加しました—

びっくりしました。

奈々さんは、中2の秋までは積極的に活動する子でした。合唱コンクールの指揮者だった時に、突然「いじめ」の対象に

なりました。

手紙には当時からのことを書いていました。

—世界が真っ白になって、言葉が無くなった。具体的なことは覚えてない。(いじめの)中心になった女の子の唇が左に上がるとひどいことが起こったから、唇ばかり見えた。私がへまをすると暴力が誘発されて、みんな嫌な思いをする。だから存在を消したかった。

お金を持ってこいと言

われて、お父さんの財布から札を抜いたら見つかった。お父さんに切れられて、死のうと思った。

でも死ねなくて部屋にこもった。

お母さんの「出てきて」という泣き声を聞いた

ら、感情がめくれあがって、お母さんに暴力をふるった。私は最低だと再認識した。死にたいのに死ねなくて地獄だった。

そんな私のために、お母さんは毎日ご飯を作って、ドアの前で話をしてくれた。お母さんは自分の生活も全部変えて、3年間家にいてくれた。「暴力って止められないのかな」と語ってくれた。

前はお母さんが「平和憲法」と言うたびに、「じゃ、私への暴力、憲法で止めてよ」ってムカついてたけど、ネットで私と同年の子の「戦争したくなくてふるえる」デモ

を知って、暴力を許さない可能性を探ってみたくなった—

—何でおまえみたいなやつが来るんだよって言われるのが怖くて、帽子かぶって、手作りプラカードで顔を隠して参加したんです。知らないおばあさんがすてきなプラカードねって握手してくれました。うれしかった。久しぶりに息が吸えました—

目的は戦争法案の廃案ですが、表現そのものが勝利だと、私に教えてくれた奈々さん。生き抜いてくれてありがとう。あなたの命が希望です。

小学校教諭・大江未知